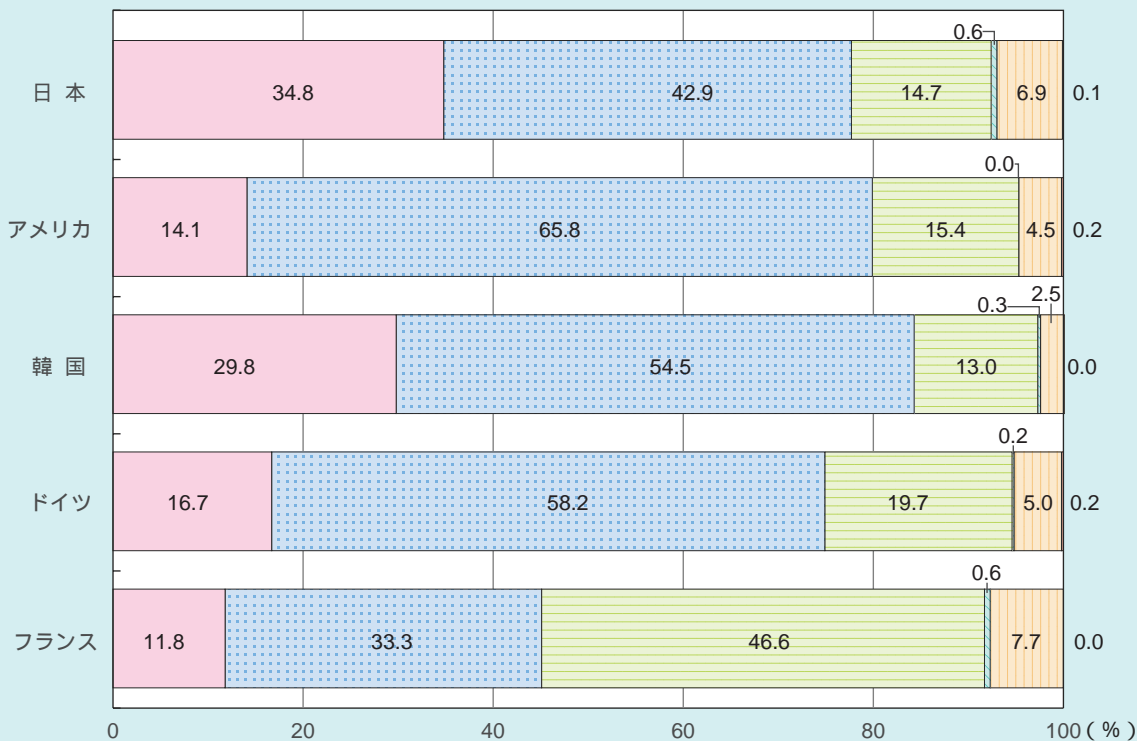


図2-2-14 子どもや孫との付き合い方（国際比較）

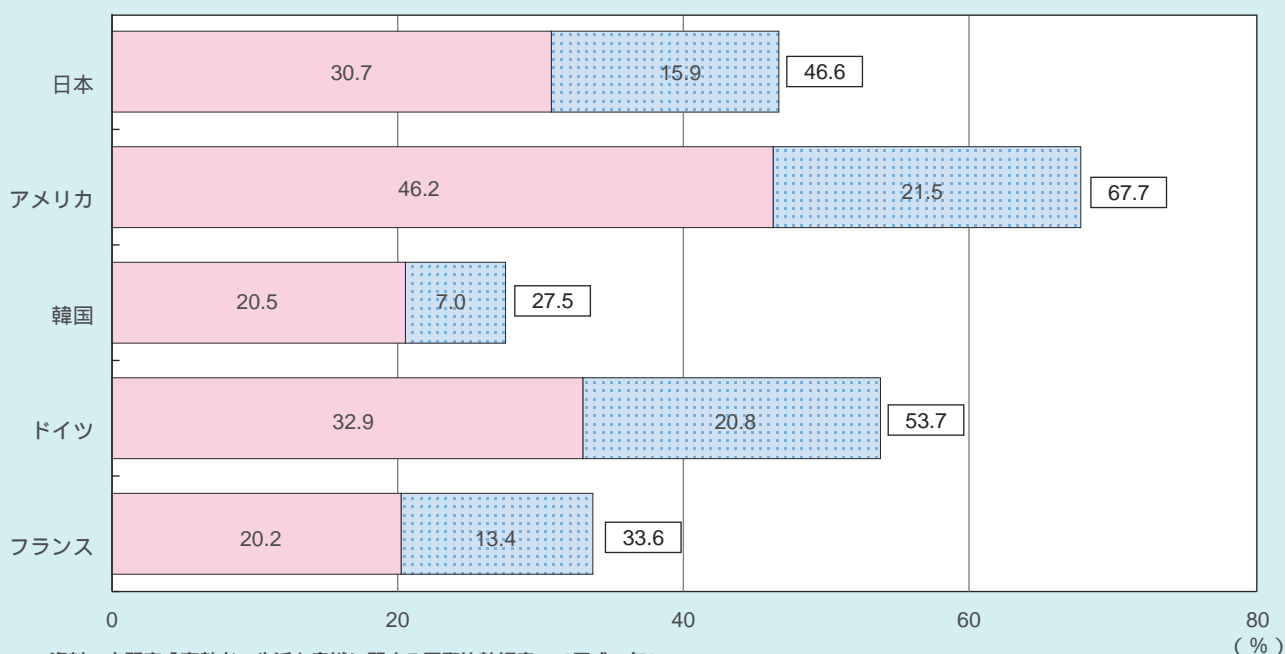
- 子どもや孫とは、いつも一緒に生活するのがよい
 子どもや孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい
- 子どもや孫とは、たまに会話をする程度でよい
 子どもや孫とは、まったくつき合わずに生活するのがよい
- わからない
 無回答



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）
 (注) 調査対象は、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、フランスの60歳以上の男女

図2-2-15 社会参加活動への参加状況

- 現在、何らかの活動に参加
 以前参加、今は不参加



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）
 (注1) 調査対象は、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、フランスの60歳以上の男女
 (注2) 表中の枠内の数値は、社会活動への参加経験の合計

(エ) ボランティア活動等の社会活動への参加状況

福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動への参加状況についてみると、参加経験があると回答した者（「現在、何らかの活動に参加」と「以前参加、今は不参加」の計）は、日本は46.6%で、調査対象の5か国の中では、アメリカ、ドイツに次いで3番目となっている（図2-2-15）。

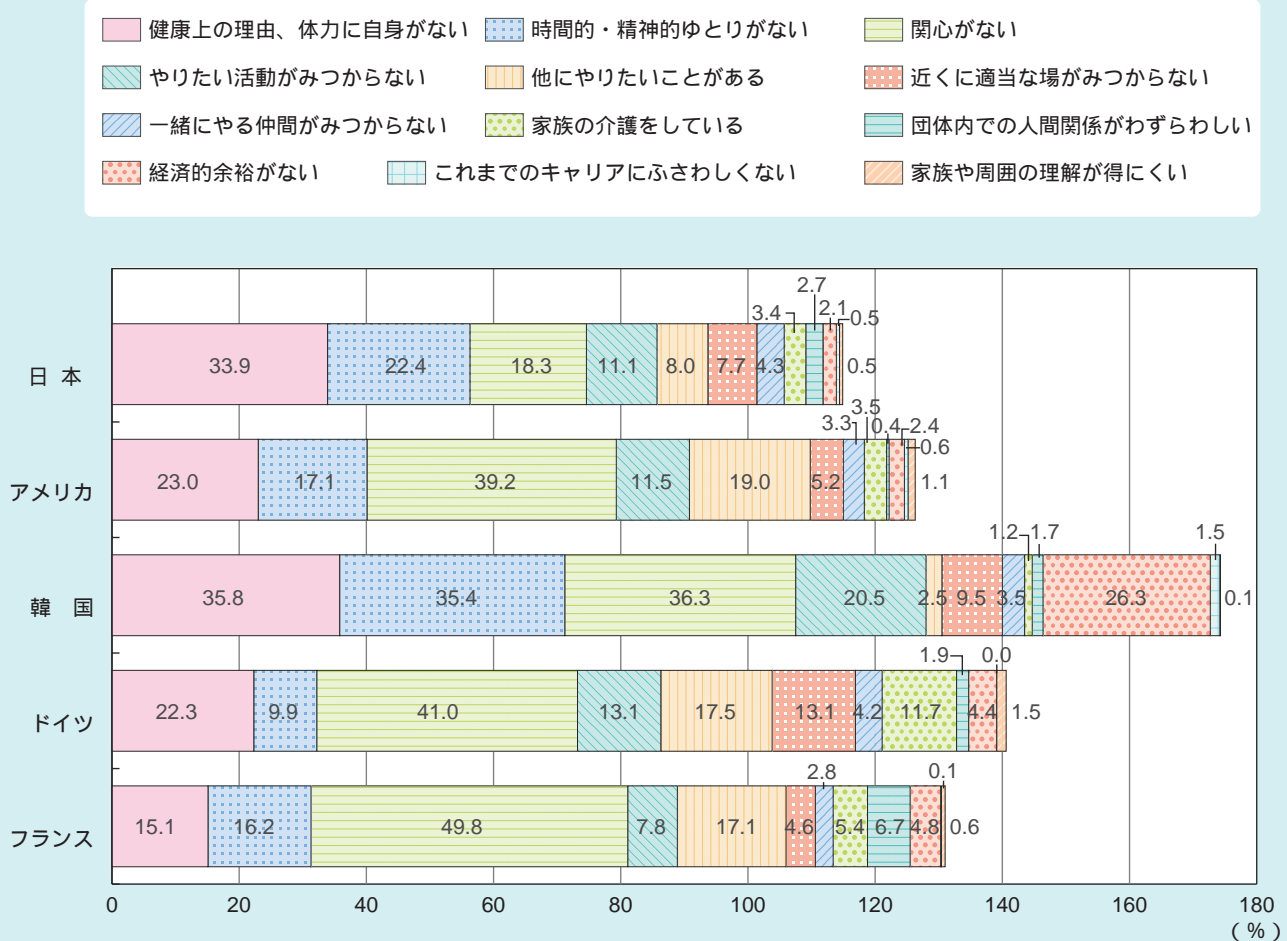
社会活動不参加者における不参加の理由としては、日本では、「健康上の理由、体力に自信がない」（33.9%）が最も高く、次いで「時間的・精神的ゆとりがない」（22.4%）、「やりたい活動が見つからない」（11.1%）、「やりたい活動が見つからない」（11.1%）などとなっている。

一方、「関心がない」は18.3%で、調査対象の5か国の中で最も低い（図2-2-16）。

(オ) 政策全般における高齢者や若い世代に対する対応

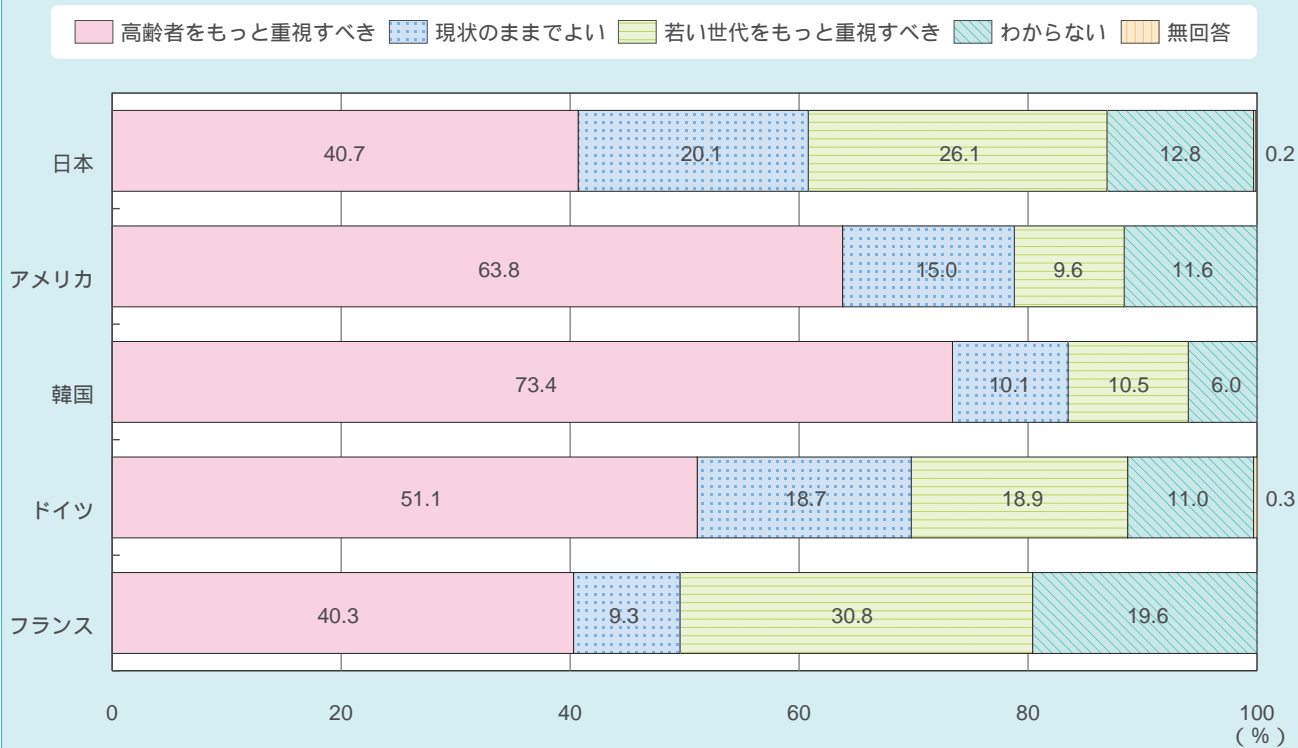
今後の政策全般における高齢者や若い世代に対する対応については、日本は、「高齢者をもっと重視すべき」が40.7%、「若い世代をもっと重視すべき」が26.1%となっている。各国と比較した場合、フランスと並んで、相対的に「高齢者をもっと重視すべき」とする割合が低く、「若い世代をもっと重視すべき」とする割合が高い結果となっている（図2-2-17）。

図2-2-16 社会参加活動への不参加理由



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査（平成18年）
（注）調査対象は、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、フランスの60歳以上の男女

図2 - 2 - 17 政策全般における高齢者や若い世代に対する対応



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）
 （注）調査対象は、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、フランスの60歳以上の男女